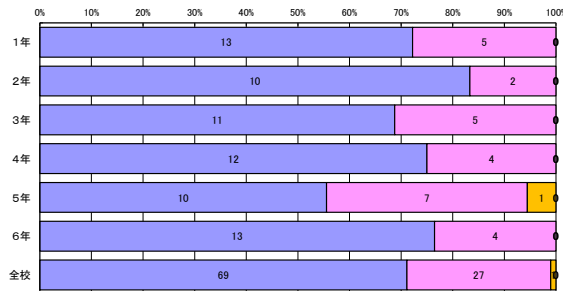


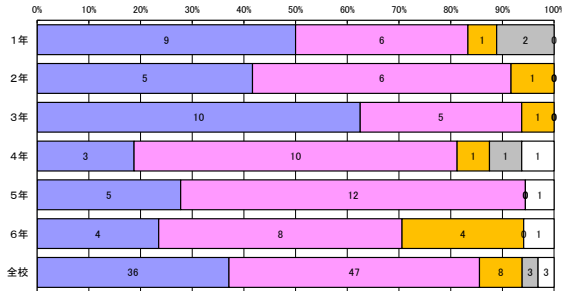
令和4年度 保護者年度末学校評価アンケート集計結果

そう思う
 ややそう思う
 あまり思わない
 思わない
 わからない

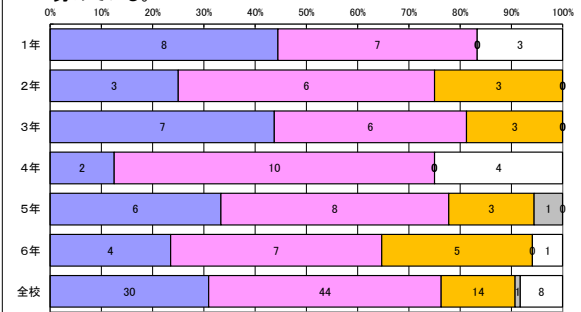
1 学校の目指す「み(自ら考え、豊かに表現する子)、や(やさしく、思いやりのある子)、ま(まっすぐに伸びるたくましい子)」は大切である。



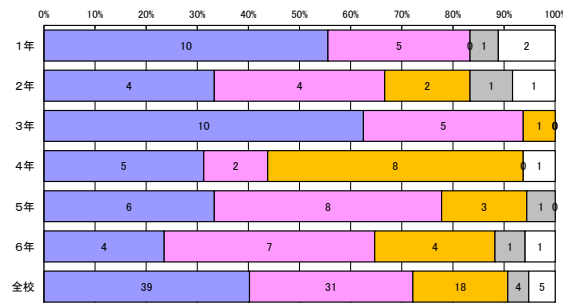
2 子どもたちが学校へ行くことを楽しみにしている、親にとって通わせたい学校である。



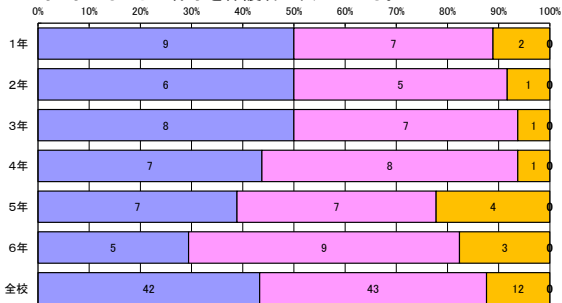
3 学校は、子どもたちが安心して楽しく学校生活が送れるように、生命や人権を大切に、いじめのない学校づくりに努めている。



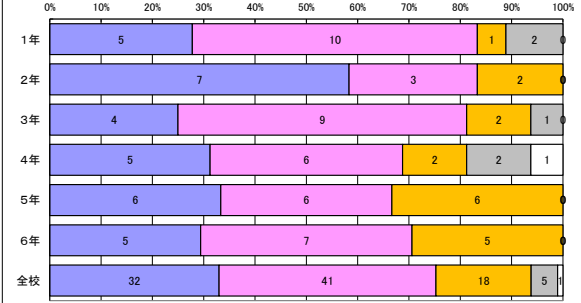
4 学校は、様々な工夫をして、子どもたちの意欲を高め、わかりやすい、楽しい、魅力ある授業ができるよう努めている。



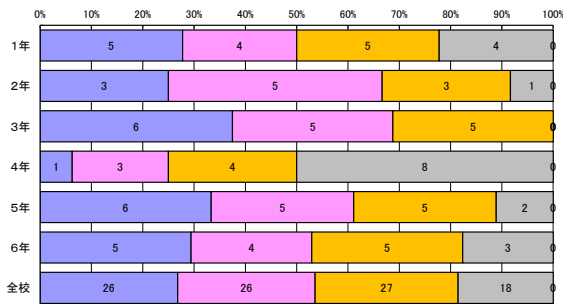
5 学校は、学校・学級だよりやホームページ、学校公開(授業参観、学校行事、PTA行事等)で、教育方針や学校の様子・子どもたちの様子を保護者に伝えている。



6 お子さまは、家庭・地域で自分から進んであいさつができています。



7 お子さまは、家庭でよく本を読んでいる。



◆年度末学校評価アンケート結果より◆

ご多用のところ、アンケートにご協力いただき感謝申し上げます。

目指す児童像については概ね共感的にご理解いただいているものと考えておりますが、親にとって通わせたい学校、児童が通いたい学校であるかという質問項目については、中間評価比で肯定的回答がやや増加したものの、生命人権を大切に、いじめのない学校づくりに努めているかという質問項目、わかりやすい魅力ある授業ができてきているかという質問項目、あいさつについての質問項目で、「あまり思わない」、「思わない」といった否定的回答が中間評価から相対的に多くなっています。家庭での読書習慣についても二極化の傾向が見られる結果となっています。

今後の改善策として、人権を基盤とした人間関係構築に注力し、児童の実態に寄り添い、児童の声をつぶさに拾い上げ、安心して楽しく過ごせる一人一人の居場所づくりに努めるほか、児童の主体的・対話的で深い学びを実現し「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを推進していきます。様々な研修機会を効果的に活用し、日々の授業展開の工夫改善を推し進めるなど、改善すべき課題を明確化して、その改善にあたっていきたいと考えております。児童相互・教職員との関係づくりにかかわるご意見に対しましても、全教職員で共通確認し、改善を図ります。また、読み聞かせや週末読書など読書活動推進のための取組を軸に、ご家庭との連携を踏まえた読書活動をさらに充実させていきたいと考えております。